

## 2026 年 4 月における評価方法の変更等の概要

### ■ 評価方法の変更について

評価方法を次の通り変更しました。

#### <暖房設備>

1. 低出力モードを搭載している電気ヒーター床暖房の確認方法について、出力の制御方法が時間制御の場合において定格消費電力の根拠となる S マークの第三者認証機関として電気安全環境研究所 (JET) 以外の機関を含めるように変更されました。当該の修正に関して、次の技術資料等を公開しました。
  - 技術情報の第四章「暖冷房設備」第五節「電気ヒーター床暖房」
2. ルームエアコンディショナー付温水床暖房の評価方法において、補機の消費電力量を算定する式が変更されました。当該の修正に関して、次の技術資料等を公開しました。なお、当該変更の前後で評価結果が変わる場合があります。
  - 技術情報の第四章「暖冷房設備」第八節「ルームエアコンディショナー付温水床暖房」

#### <給湯設備>

3. ヒートポンプ給湯機の評価方法について、引用規格から JIS C 9220:2011「家庭用ヒートポンプ給湯機」および JRA4050:2007R「家庭用ヒートポンプ給湯機」が削除されました。これに伴い、給湯機の効率に日本冷凍空調工業会標準規格 JRA4050 に基づく年間給湯効率 (APF) を換算した値を用いる方法が廃止されました。また、確認すべき設備機器の性能値から同規格に基づく年間給湯効率 (APF) が削除されました。当該の修正に関して、次の技術資料等を公開しました。
  - 技術情報の第七章「給湯設備」第一節「全般」
  - 技術情報の第七章「給湯設備」第四節「電気ヒートポンプ給湯機」
  - 技術情報の第十一章「その他」第四節「建材、設備、部品等の性能確認方法」

4. マルチバス方式を採用する電気ヒートポンプ・ガス瞬間式併用型給湯機が評価対象として新たに追加されました。当該の変更に関して、次の技術資料等を公開しました。当該の修正に関して、次の技術資料等を公開しました。

- 技術情報の第七章「給湯設備」第一節「全般」
- 技術情報の第七章「給湯設備」第六節「電気ヒートポンプ・ガス瞬間式併用型給湯機及び給湯温水暖房機の給湯部」

<コージェネレーション設備>

5. 引用規格に、JIS C8852:2024「小形燃料電池発電システムのエネルギー消費量の測定方法及びエネルギー消費量推定に用いる設備仕様の算定方法」および JIS S2075:2011「家庭用ガス・石油温水機器のモード熱効率測定法」を追加しました。これに伴い、コージェネレーション設備の仕様の根拠として、JIS C 8852 が追加されました。当該の修正に関して、次の技術資料等を公開しました。

- 技術情報の第八章「コージェネレーション設備」

## ■ 上記以外の修正等について

技術情報等を次の通り修正しました。

### <外皮>

6. 開口部の面積に関する文言を一部修正しました。当該の修正に関して、次の技術資料等を公開しました。
  - 技術情報の第三章「暖冷房負荷と外皮性能」第二節「外皮性能」
7. ガラス、窓及びドア、サッシに関連する JIS と ISO について、最新の改訂内容に対応するために引用規格を更新しました。当該の変更に関して、次の技術資料等を公開しました。
  - 技術情報の第三章「暖冷房負荷と外皮性能」第一節「全般」
  - 技術情報の第三章「暖冷房負荷と外皮性能」第二節「外皮性能」
  - 技術情報の第三章「暖冷房負荷と外皮性能」第三節「熱貫流率及び線熱貫流率」
  - 技術情報の第三章「暖冷房負荷と外皮性能」第四節「日射熱取得率」

### <給湯設備>

8. 水優先吐水機構について、本文「3. 用語の定義」と付録 D とで記述内容が一致するように修正しました。当該の修正に関して、次の技術資料等を公開しました。
  - 技術情報の第七章「給湯設備」第一節「全般」

### <自然エネルギー利用設備>

9. 空気集熱式太陽熱利用設備について、算定式の一部に数学的な不備があったため、これを修正しました。当該の修正に関して、次の技術資料等を公開しました。

- 技術情報の第九章「自然エネルギー利用設備」第三節「空気集熱式太陽熱利用設備」

以 上

---

※「技術情報」とは、国立研究開発法人 建築研究所が公開する「平成 28 年省エネルギー基準に準拠したエネルギー消費性能の評価に関する技術情報(住宅)現行版」です。  
「資料」、「Excel ツール」および「WEB アプリ」とは、WEB サイト「住宅に関する省エネルギー基準に準拠したプログラム」において公開する入力補助ツール・補足資料です。

## エネルギー消費性能計算プログラム(Ver.3.10.0)における更新の内容

現行バージョン(Ver.3.9.0)からの変更点は、次の通りです。

### ● 令和8年4月1日 ●

#### <全般>

1. 以下の項目の符号表示について、計算結果画面では「正」、計算結果 PDF では「負」と出力されていたところを、「正」表記に統一しました。
  - 発電設備の発電量のうち自家消費分 太陽光発電(PV)
  - 発電設備の発電量のうち自家消費分 コージェネレーション設備(CGS)
  - コージェネレーション設備の売電量に係る控除量

#### <暖房>

2. 「ルームエアコンディショナー付温水床暖房機」の評価において、補機の消費電力量を算定する式が変更されました。これに伴い、プログラムにおいても新しい算定式に基づいた算定を行うよう変更しました。

#### <太陽熱>

3. 空気集熱式太陽熱利用設備集熱器群の「集熱器の集熱効率特性線図一次近似式の傾き」について、最大値が 10.0 から 30.0 [ $\text{W}/\text{m}^2 \cdot \text{K}$ ]へ変更されました。

以上

## 住宅・住戸の外皮性能計算プログラム(Ver.3.10.0)における更新の内容

現行バージョン(Ver.3.9.0)からの変更点は、次の通りです。

●令和 8 年 4 月 1 日●

<住宅・住戸の外皮性能の計算プログラム Web アプリケーション>

1. 熱貫流率計算結果画面において、計算に使用する項目と表示をあわせるため以下の変更を行いました。
  - 窓の貫流熱損失計算画面:使用していない項目「建具仕様」、「ガラスの仕様」、「枠の影響の有無」の表示を削除しました。
  - 基礎等の貫流熱損失計算画面:「土間床等面積」と「面積」が重複して表示されていたため、「土間床等面積」のみ表示としました。
2. 日射熱取得率計算結果画面において、計算に使用する項目と表示をあわせるため以下の変更を行いました。
  - 日射熱取得計算の各項目(壁等・ドア、熱橋、窓)において、「隣接空間の種類」を追加しました。また、窓においては「熱貫流率 U」を削除しました。
  - 窓の日射熱取得計算の詳細画面において、以下の修正を行いました。
    - 「枠の影響の有無」を追加
    - 「二重窓における外気側窓の伝熱開口面積」、「二重窓における室内側窓の伝熱開口面積」、「 $l_1$ 」、「 $l_2$ 」、「 $f_1$ 」、「 $f_2$ 」を削除
    - 「z」を「 $z_{y+}$ 」に修正

以上

## 日よけ効果係数算出ツール(Ver.3.10.0)における更新の内容

Ver.3.9.0 からの変更点はありません。

以上

土間床等の外周部の線熱貫流率の算出プログラム(Ver.3.10.0)における更新の内容

Ver.3.9.0からの変更点はありません。

以上

共同住宅等の計算結果集計プログラム(Ver.3.10.0)における更新の内容

Ver.3.9.0からの変更点はありません。

以上